

人権つうしん

2008年 春号



みんなで人権について考えてみませんか? . . .

平成20年(2008年)3月27日発行
通算34号

発行 長野県教育委員会文化財・生涯学習課

発行人 生島和弥

長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-235-7437

FAX 026-235-7493

Eメール bunsho@pref.nagano.jp

はじめ 南沢 創 さんをご存知ですか?

彼は多感な思春期に光を失いました。そして今、立ち足るもろもろの壁を乗り越え、念願のバイオリンと音楽の才能を生かした職業である、中学校の音楽教師をしています。

テレビ局で南沢さんのことが放映されたのは、今から十年ほど前、彼が大学生だった頃のことです。

この番組を契機に、小学生と南沢さんとの交流が始まりました。小学校を訪れ気さくに子どもたちと接する南沢さん。視覚障害のある方との接し方をどうしたらいいのかと相談したり、準備したりする子どもたちを尻目にバイオリンをエネルギッシュに演奏する南沢さん。子どもたちが語るときは笑顔を絶やさずその話に聞き入ってください。

子どもたちに、音楽の教師になることを自らの夢と語り、そして大学受験の頃から、視力が失われていく過程や、完全に視覚障害者となった今までの事を具体的に語られた。そこにいじめというくやしい現実があったことも . . .

「生きる力を大事にしてほしい」と訴える南沢さんと子どもたちの間に、刻々と一本の強い糸が伸びていくことを感じました。

交流を続けて二年目。校内で開催した『心の瞳コンサート』の後で、南沢さんが子どもたちに語りました。

「たとえ視力が衰えても、もう一度自分の夢を輝かせたいと思っています。

小学校一年生の時、翼の折れた小鳥を道端で見つけました。折れた翼で必死に飛び立とうとする小鳥。でも小鳥は、羽ばたきながらも死んでしまいました。私は小鳥ではなく人間です。折れた翼を支えながら(失った視力と共に)今飛び立とうとしています。少しずつ体が浮かび上がるを感じながら、助け合う分かり合うことはこういう事かなと実感しています。」

南沢さんとの交流を通して、子どもたちが学んだもの。それは、後々の彼らの人生の中で大きな財産となっていくことでしょう。





被差別部落の歴史から(近世以降)

～以下の6つの問題に か×でお答えください。～

問題 徳川幕府は、民衆を分断して支配する目的で、身分制度を作った。

問題 「土農工商えたひにん」という言葉の使われ方は江戸時代では一般的であった。



花売り・古傘買い

飴売り・水売り

問題 江戸時代、一般に百姓は町人よりも身分が高いとされた。

問題 被差別部落の人々は、河原や荒地のような条件の悪いところや日当たりの悪いところなどの村や町外れに住まわされた。

問題 江戸時代、被差別部落の生活は農民以上に苦しかったため、被差別部落では人口が減少した。



万歳・鳥追い

問題 明治時代になって、身分制度がなくなり、多くの百姓・町人は被差別部落の人々とともに、平等を求める声を上げていった。

近年の部落史にかかる史料研究から、以下のような考え方が主流になってきました。

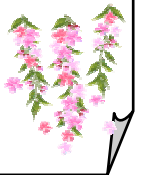
「被差別部落の歴史から」問題の答え

- × 幕府が作ったのではなく、(中世社会の流動的な差別の中で「キヨメ」と呼ばれた、清掃やケガレの払いなどを担った人々に対する差別を思想的な中核として、様々な職人集団等に死牛馬処理の役負担を課すことにより、)制度として利用したことにより、固定化されたと考えられます。
- × 「土農工商」とは、本来は三千年前の古代中国で使われた「民」の職業を列挙した熟語であり、「いろいろな人たち」という意味です。江戸時代は身分を表わすという「土農工商えたひにん」の呼称は使われませんでした。
- × 近世においては民衆の主な居住地が、百姓は農山(漁)村に、町人は町場にあったことにより区分されていましたが、相互の上下関係はなかったと考えられます。
- × 被差別部落の人々が住む場所は、職業上作業しやすい場所として河原や荒地等を選択したと考えられます。明治以降は特に、仕事や教育の権利を奪われ、排斥された部落の人々は部落外に出られなかったのです。
- × 江戸時代、中期以降の人口は日本全体でほぼ3千万人と横ばいですが、苦しい生活であっても、被差別部落の中には人口が数倍に増えている所もあることが明らかになっています。革細工、竹細工、履物の製造と販売など、多様な仕事に従事して生活し、人口増を支える事ができたのです。長野県内のこれまでの研究成果によれば、被差別部落の人口は、ほぼ横ばいであったと考えられます。
- × 太政官布告(いわゆる「解放令」)に反対する民衆による、被差別集落の焼き討ちや惨殺が西日本を中心に各地で起きました。被差別民衆もまた、それまでに獲得してきた特権や免税の廃止に反対して行動しました。〈参考〉「人権・同和教育基本資料」(東京書籍)「これで分かった部落の歴史」「今部落史が変わる」(解放出版)

絵は、「今様職人尽歌合(文政8(1825)年)」、「村松家家訓(1762～1841)」より引用、万歳(年頭に家々をめくり歌い舞いつつ祝言を述べた門付芸)、鳥追い(女性芸人が年頭に祝歌を歌いながら家々をまわった門付芸)など、被差別民衆が担った職能と見られる。

「支え、支えられ・・・ 様々な縁と出会いを大切に」

飯田風越寮 寮長 下平薫



「母のお墓に手を合わせたい」と、この正月、一人の卒業生K君が寮を訪ねてくれた。寮で暮らした期間は二年弱と短かったものの、強烈な印象を残していた彼であるが、自分の今あるのは寮のお陰と感謝してきたという。寮を出て既に十数年、母は世を去り、よくも悪くも世間の荒波の中で揉まれ、その年月の中で母に抱いていた恨み辛みの思いも今は、自分を施設に入れざるを得なかった母の言つに言えない苦悩が自分なりに理解できるようになり、母の墓前に手を合わせての自分を報告したい心境に至ったとのことであった。

んだ訳でもなく、まさに縁あつての風越寮、様々な子どもとの出会い、そしてお付き合いの中で沢山のことを学ばせてもらつてきた。

い実践の中で、いったん縁があつて出会つた子どもとは、長い期間でとことん付き合つていこうという気持ちで培われているものと信じている。

めることのできるようになった彼は、多くの人との関わりや支えの中で、きつと乗り越えていつてくれるものと信じている。そして多くの卒業生もまた・・・。

「風越寮で生活できて本当によかった」寮で生活した多くの子ども達が、こう言つてくれる。職員にとつては大きな喜びと励みとなる言葉である。施設で生活する子ども達は、自ら施設を選択することは殆ど不可能である。であるからこそ、どこで生活し誰と出会うかによつて人生をも変えてしまつかもめない。

そんな大きな責任を私達は負つていると常に肝に銘じていかなければならないと強く思つている。

縁あつて、風越寮にお世話になり、早や四半世紀が過ぎた自分である。そもそも福祉や子どもについて学

そんな自分が心のバックボーンとしてきたのは、今は亡き母の、「真心は、いつか必ず通じるんだよ」という言葉である。それは「安易に簡単に評価判断しない。長い目、長い期間で真心持つて付き合つていく」ということでもあつた。そして、これは子どもはもちろんであるが、どんな親に對しても、その言い得ぬ苦勞や切なさ辛さを受けとめ理解してあげることこそが大切であり、人間関係お付き合いの始まりであると受け止めてきた。

施設において叫ばれて久しい「子どもの権利擁護」とは、施設が「子どもが安心して、当たり前前のできる場」であることだと考えている。それはまた、子どもにとつて「心地よく暮らしやすい施設」であり、職員にとつては「心地よく働きやすい施設」であることと確信している。そのためには、些細なことでも子どもよさを認め可能性を信じることで、職員同士もお互いを認め苦勞を理解し支えあつ、和こそ大切であると実感している。

考えてみれば、既にこれからの寮での年月を見通すことのできる時期にきた自分であるが、子どもを信じ職員を信じ、縁と出会いを大切に、どこまでも支え支えられ心豊かに付き合つていきたいと改めて考えるこの頃である。

(飯田風越寮について)

社会福祉法人 飯田風越福祉会
児童養護施設 風越寮



～アイヌの人々と共に～

飯田線開通に活躍した川村カ子ト



川村カ子ト（川村カネト 1893年～1977年）は、明治26年、旭川に生まれました。鉄道人夫として測量隊の手伝いをし、やがて測量技手試験に合格し、北海道各地の線路工事の測量に携わりました。

飯田線の前身、三信鉄道に請われ、難しすぎて引き受け手の無かった天竜峡～三河川合間の測量をアイヌ測量隊を率いて敢行し、現場監督も務めて難工事を完成させました。

急峻な断崖絶壁地帯で、断層が多く、落盤や湧水等によって困難を極めたルートも、川村カ子ト等の優れた技術により1937年に完成したのです。

カ子トは、三信鉄道開通後、樺太や朝鮮半島での測量にも従事しました。昭和35年4月には、三信鉄道における貢献を縁として信州に招かれ、各地で講演をしています。

その当時、地元教育委員会教育委員長をされていた今村良夫さんは、次のように語っています。

「難工事にいら立ち、またアイヌに使われるのをきらう土木労務者が、現場監督をしていたカ子トさんを工事のドサクサにかこつけ、トンネル内でコンクリート詰めにして生き埋めにしてしまおうと謀り、カ子トさんは命を奪われようとした。そんな窮地に立ってもなお、カ子トさんの態度は立派だった。」

カ子トを始めとするアイヌの人々の、差別と闘いつつ、測量と鉄道建設に渾身の力をふりしぼった活躍があったからこそ、現在の飯田線の開通があったのです。

アイヌの人々は独自の文化・伝統をもつ民族です。

～シサム（私の隣人）として～

アイヌの人々は、中世末期以降には、当時の「和人」との関係において北海道などに先住していた民族で、独自の文化や伝統をもつ民族です。「アイヌ」という言葉は、アイヌ語で「カムイ（神）」に対する「人間」という意味で、民族の呼称です。

アイヌの人々は、江戸時代の松前藩による支配や、明治維新後の「北海道開拓」の過程で、日本語の使用や、風習の禁止などを強制されました。このような同化政策のため、独自の民族文化、伝統的な生活手段を失い、苦しい生活を強いられてきました。現在でも、アイヌの人々への理解は十分ではなく、学校や職場、就職、結婚などで差別や偏見が依然として残されています。

私たちが、アイヌの人々をシサム（私の隣人）として、民族としての歴史や文化、伝統などへの理解を深めることにより、アイヌの人々の人権を尊重することにつながります。現在では、アイヌ民族固有の文化の振興、伝統の普及を目的として、アイヌ語教室の開催や伝統文化・伝統行事の復活などが試みられています。

建物（チセ）



衣類（樹皮衣アットゥシ・木綿衣ルウンベ）



編み物（タラ・エムシアッ）



熊送り儀礼（イオマンテ）



食べ物（野菜・川漁）



口琴（ムックリ）

